

# 第1学年道徳学習指導案

平成29年6月26日(月) 第2(③)校時  
 生徒数 2組 33名(男 17名 女 16名)  
 指導者 五味 潤 俊夫 松本 立信



- 1 主題名 集団の一員として 4-(4)  
 2 資料名 「長縄跳び」 出典(学研「中学生の道徳」)  
 3 本時の学習指導

(1)ねらい 所属する集団の向上のために、進んで自己の役割を果たすとともに、協力して取り組もうとする心と態度を育てる。

(2)展開 ※学校課題との関連 ◎人権教育との関連

段階	主な発問と学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 あなたはどんな「集団」に属していますか、そこでどんな「役割」をしていますか。(5分)		・価値への方向付けをする。
展開	2 資料「長縄跳び」の体育祭前の部分の動画を聞きながら、ぼくの気持ちの変化を思い浮かべる。 (1)「10日も練習を重ねて」いくうちに、ぼくはどんなことを考えたろうか。 (2)高橋に対してみんなが「がんばろう！ドンマイ！」と声をあげたとき、ぼくはどんな気持ちだったろう。 ◎ (3)「体育委員のくせして、しっかりしろよ。」と遠慮のない文句を言われた時、ぼくの気持ちを役割演技で確認する。 3 資料の最後の部分の動画を聞きながら、ぼくの気持ちの変化を考える。 (4)「足よりも心だ！」と叫んだときのぼくは、どんな気持ちだったろう。(35分)	・回数が増えてきた。 ・1位になるぞ。 ●面倒だな。 ・高橋、がんばれ。 ●へたくそ、うまく跳べ！ ●木村中心にやってくれ。 ●うるせえな。 ●いい気なもんだな。 ・みんな大変なんだ。 ・がんばるしかないか。 ・木村を手助けしよう。 ・みんな、がんばろうぞ。 ・心を一つにしてやろう。 ・本気で戦おうぞ。 ・絶対、1位になるぞ。	・分析記号の付いている資料を生徒に配布し、ぼくの心の動きや感情の変化を感じながら対話的、深い学びをうながす。 ・「体育委員」としてクラスをまとめていけるか不安と役割の重さを感じて練習するぼくの気持ちを感じ取らせたい。 ・練習の疲れに、運動の苦手な高橋への不満が交錯するぼくの心境に共感させる。 ・役割演技(ロールプレイ)の方法について、簡単に説明をしてから演技させる。 ・役割演技の中で、ぼくの言動について生徒たちに共感させたい。 ※役割演技の技法を使いながら、生徒の気持ちや考えを言わせる学習を繰り返し取り入れることで、深い価値の学びをさせる。 ◎自分の考えや思いを自由に言えたり話したり(演技したり)できる雰囲気作りを考えていく。
	4 明日からの学校生活の中で、「自分の立場や位置」について考えたことを発表しよう。(7分)		・学校生活やそれ以外の場面で、本時の価値にせまるために、生徒たちの本音を引き出しながら記入や発表、その理由も引き出したい。
終末	4 教師の説話を聞く。(3分)		・実践意欲につながるような、具体的な事例などを用意する。

- 2 事後指導(評価) 今日から1週間、1ヶ月間の各生徒の生活場面を観察しながら、本時のねらいとの関連について、評価(ABCD)を行い賞賛または指導、支援、修正を加えていく。